

令和8年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立大砂土東小学校) 学校番号056

学校教育目標	自立と感謝 ～心ゆたかに かしこく たくましく～	
目指す学校像	子どもたちが、幸せな人生を送るために、社会で活躍するために必要な資質・能力を身に付けることができる学校	
目 標	1	【学びの質の向上】 ICTを生かした学びの改善、問題解決型学習の工夫改善
	2	【子どもの発達・心のサポート】 子どものニーズの把握、困難さへの対応、豊かな心の育成
	3	【地域とともにある学校づくり】 コミュニティスクールの推進、積極的な公開
	4	【教育環境整備】 計画的な修繕の実施、危機管理の徹底
	5	【教職員のキャリア形成】 学校課題研修の充実、働き方改革の推進

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会の評価	
年 度 目 標			年 度 評 価				実施日 R9年 月 日	
番	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	【学びの質の向上】 ○教員は、引き続き子どもが学び方を考えることができる授業を推進する。合わせて、体験や交流の活動も推進する。 ○学校は、ICTの効果的な活用についても継続して研修を行う。デジタルとアナログのバランスに留意する。 ○管理職は、引き続き授業を参観し適切な指導助言を行う。支援を行う。	ICTを生かした自立した学びの充実	① じしゃく(じぶんで決める。しこうする。やってみる。クラウド)をもとに、自立した学びを行う。 ア 管理職は、授業を参観してフィードバックを行う。 イ 一人ひとりの興味関心や考え方に応じた授業を行う。 ウ タブレット内アプリを活用した授業を行う。 ② 子どもたちの課題に応じた組織体制を再編する。 ア 中学年に教科担任制を導入する。 イ 全学年に副担任、アシスタントを配置する。	①ア 管理職は、全教員の授業を参観しフィードバックをする。(～12月、90%) ①イ 児童は、「自分で学び方を考え工夫することができる」の問いに肯定的な回答をする。(高学年 R7 92%→ R8 95%) ①ウ 児童は、「タブレットを活用して学習することができる」の問いに肯定的な回答をする。(R7 95.0 %→ R8 97.0 %) ②ア 学校は、教科担任制を導入する。 ②イ 学校は、副担任やアシスタントを配置する。				
		体験的な学習の充実	③ 地域の教育力を生かした体験学習の充実 ・ 茶道 ・ ミシン ・ 昔の道具 ・ 和楽器 ・ 交通安全 ・ 町探検 ・ 先人の方の話 ・ 地域の方の話 ・ 図書ボランティア	③ 体験学習を計画通りに行う。(80%) ③ 児童は、「地域の人たちは自分たちを見守り、支えてくれている」の問いに肯定的に回答する。(R7 41.9 → R8 45%)				
2	【子どもの発達・心のサポート】 ○教員は、今まで同様、学習や生活で困っている児童の情報を収集する。 ○学校は、今まで同様、いじめ案件では被害児童に寄り添いながら、迅速に誠実に対応する。引き続き関係機関と連携する。 ○児童、教員、家庭や地域の方々は、特別支援教育について理解を深める。 ○学校は、今まで同様、子ども相互の温かな人間関係を構築する。 ○教員、家庭、地域で力を合わせて、豊かな心を育てたい。 ・ 学校は他者の生き様に触れる機会を設ける。 ・ 学校、地域、家庭で「あいさつ」をしていく ・ 学校、家庭で、規範意識を育てたい。	子どもたちの状況把握と対応	①ア 定期的なアンケート、ICTによる心身の状況報告、欠席連絡、健康観察を活用した、児童に関する情報の収集 ①イ 児童・保護者に関する情報の関係教員間での共有(通年) ②ア 「Sola る一む」の運用基準の更新(4月) ②イ 教員の特別支援学級の参観(～1月) ③ いじめ事案覚知後の迅速、誠実な対応(年間)	①ア 教員は、絶え間なく児童の情報を収集する。 ①イ 学校は、必要に応じてケース会議を開く。 ②ア 学校は、運用基準を適宜更新する。 ②イ 教員は、支援学級の授業を参観する。(80%) ③ 学校は、いじめ覚知後、組織的に対応する。 ・ 「覚知-報告-方針決定-調査」の流れ ・ 被害児童への寄り添い				
		豊かな心の育成	④ 全教育活動、ご家庭や地域の方々の協力により豊かな心を醸成する。 ・ 道徳の時間における「基本的生活習慣」「規範意識」「自立」「感謝」に関する内容の充実(通年) ・ 「称賞、励まし、認知」による「自信がもてる子」「人の役に立ちたい子」の育成 ・ 学校、地域、家庭が、各々が発する文書のヘッダーを用いた挨拶励行の働きかけ	④ 児童は、「自分にはよい所がある」の問いに肯定的な回答をする。(R7 91%→R8 95%) ④ 児童は、「自分からすすんであいさつをすることができる」の問いに肯定的な回答をする。(R7 86.6% → R8 90%) ④ 児童は、「人の役に立つ人間になりたい」の問いに肯定的に回答する。(R7 98%→R8 98%)				
3	【地域とともにある学校づくり】 ○学校ホームページをとおして、教育活動の様子、学校の考え方を、家庭・地域に発信する。 ○創立95周年事業をとおして、地域や学校に対する愛着を育てる。 ○地域の教育力に生かし、体験的な学習を行う。	コミュニティスクールの推進	① 子どもを中心に据えた創立95周年記念事業の実施 ・ 記念写真撮影 ・ 横断幕 ・ 記念集会 ・ 記念給食	① 児童は、「学校が楽しい」の問いに肯定的に回答する。(R7 91%→R8 95%/全国87%) ② 児童は、「地域の行事に進んで参加している」と肯定的回答をする。(児童76%→80%) ③ 保護者は、「教育活動を積極的に発信している」の問いに肯定的に回答する。(R7 96.5 → R8 96%)				
		積極的な情報発信、教育活動の公開	② HPと学校発出の文書、学校公開、個人面談をとおした、学校の様子、学校の考え方、子どもの様子の保護者や地域の方々への広報(通年)					
4	【教育環境の整備】 ○学校は、今まで同様、健康・命にかかわる修繕を最優先に計画執行を進めていく。 ○教員は、今まで同様、事故の未然防止へ高い意識を維持していく。 ○学校は、今まで同様、登下校時に交通安全に関する指導を行う。	施設・設備の点検と計画的な修繕の実施	① 施設設備の管理状況を点検する日の設定(月1日) ① 健康・命にかかわる修繕の見極めと、計画的な執行	① 学校は、毎月安全点検を実施する。 ① 学校は、予算を計画的に執行する。				
		児童の命に係わる危機管理の徹底	② 災害、アレルギー、疾病・怪我・感染症対応の危機事案に関する、継続的な研修 ② 安全に関する継続的な指導(特に交通安全(東門周辺))	② 学校は、危機事案に関する研修を計画的に行う。 ② 教師は、「子どもが安全に生活を送っている」の問いに肯定的に回答する。(R7 64.0%→R8 75%)				
5	【教職員のキャリア形成、働き方】 ○教員は、研修をとおして、教育活動の推進に必要な専門的な知識や技能を身に付ける。 ○会議や行事の精選を行い、教職員が児童と向き合う時間を確保する。	教職員の研修	① 教員一人ひとりが課題としている事項について主体的に研修を行い、日頃の教育活動に生かす。 ① 外部講師による「学級経営」研修の実施(3回)	① 教員は、課題としている自校の研修を行うことができたか。 ① 教員は、学級経営に関する研修に参加することができたか。				
		働き方改革の推進	② 各種会議の在り方、学校行事の効果から、教職員の働き方を改善し、教員が児童と向き合える時間を確保する。会議のない日を設定する。	② 教員は、児童と向き合う時間が増えたか。				